

1 調査名称：熊本都市圏総合交通戦略策定調査

2 調査主体：熊本県

3 調査圏域：熊本都市圏

4 調査期間：平成28年度～平成30年度

5 調査概要：

平成28年4月に発生した「熊本地震」の都市交通への影響を検証し、防災面で必要な課題を整理した上で、平成27年度に策定した「熊本都市圏都市交通マスタープラン」に位置付けられた将来交通施策の確実な実現を図るため、関係機関の役割分担とともに、方面別、地域別に時間軸を考慮した実行計画を策定する。

I 調査概要

1 調査名称：熊本都市圏総合交通戦略策定調査

2 報告書目次

1. 業務概要

1-1 業務の目的

1-2 実施方針

1-3 実施内容

2. 熊本地震による影響評価

2-1 実施手順

2-2 都市圏交通への影響調査

2-3 課題の整理

2-4 都市圏交通の担う防災機能の検討

2-5 アクションプランへの反映

2-6 空港アクセス改善施策の検討

3. 施策関連事業の抽出

3-1 実施手順

3-2 既存資料の整理

3-3 調査票・依頼文の作成

3-4 スケジュールの調整

3-5 送付資料の準備

3-6 自治体訪問調査

3-7 施策関連事業(案)の整理

3-8 アクションプログラムの取り組み・進捗状況の整理

4. 計画期間中の段階的成果目標の提案

4-1 目標年次の設定

4-2 成果目標及び成果指標の設定

4-3 成果指標(案)のまとめ

5. 成果目標達成のための交通施策の策定

5-1 交通施策の組み合わせの視点

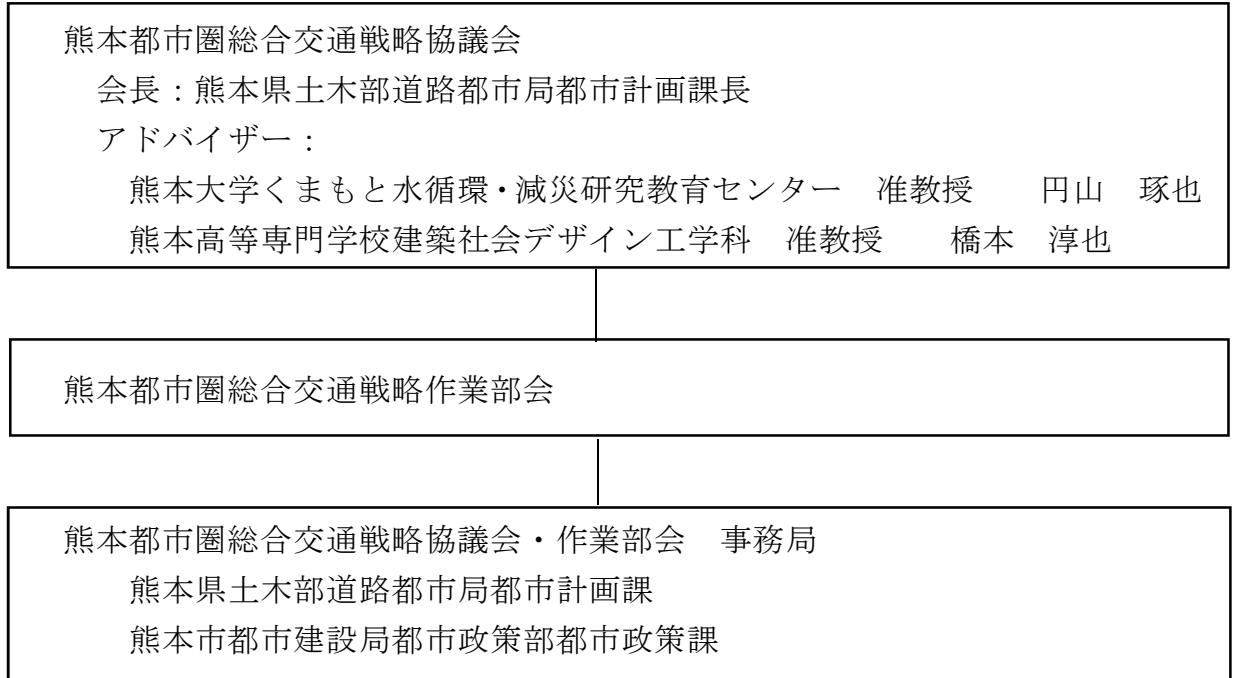
- 5-2 基本パッケージとなる交通施策(案)
- 5-3 連携パッケージ(案)
- 5-4 バス専用レーンの検討

- 6. 協議会運営補助
 - 6-1 協議会の運営補助
 - 6-2 作業部会の運営補助

- 7. 都市交通マスタープランの見直し必要性の検討
 - 7-1 検討概要
 - 7-2 将来交通量推計

- 8. 都市圏北東部道路施策検討
 - 8-1 交通量推計の概要
 - 8-2 配分データの作成
 - 8-3 交通量配分手法
 - 8-4 現況再現性検証
 - 8-5 将来交通量推計
 - 8-6 将来交通量推計結果
 - 8-7 推計結果とりまとめ

3 調査体制



4 委員会名簿等：

熊本都市圏総合交通戦略協議会 委員一覧

	所 属	委 員	氏 名
国	国土交通省九州地方整備局 熊本河川国道事務所	技術副所長	小林 秀典
	〃 九州運輸局 熊本運輸支局	首席運輸企画専門官	岩本 輝彦
警察	熊本県 警察本部 交通部	交通規制課長	大内田 朗二
	〃 熊本中央警察署	地域交通官	飯塚 安博
	〃 熊本南警察署	交通官	浜田 浩
	〃 熊本東警察署	地域交通官	杉山 和義
県	熊本県 企画振興部 交通政策・情報局	交通政策課長	重見 忠宏
	〃 土木部 道路都市局	道路整備課長	亀崎 直隆
	〃	都市計画課長	坂井 秀一
市	熊本市 都市建設局 都市政策部	都市政策課長	杉田 浩
	〃	交通政策課長	土屋 裕樹
	〃 土木部	道路整備課長	今村 寿也
関係市町村	合志市 総務部	企画課長	大茂 竜二
	益城町	企画財政課長	山内 裕文
NEXCO	西日本高速道路株式会社 九州支社 総務企画部	企画調整課長	和泉 直助
交通事業者	九州旅客鉄道株式会社 熊本支社	総務企画課長	矢古島 竜太
	熊本電気鉄道株式会社 自動車事業本部	乗合事業部長	坂本 昭文
	九州産交バス株式会社 営業本部	営業部長	宮田 健司
	熊本バス株式会社 自動車部	自動車部長	河地 信明
	熊本都市バス株式会社 管理本部	管理本部長	石田 徹
	熊本市 交通局	総務課長	河本 英典

熊本都市圏総合交通戦略協議会 アドバイザー

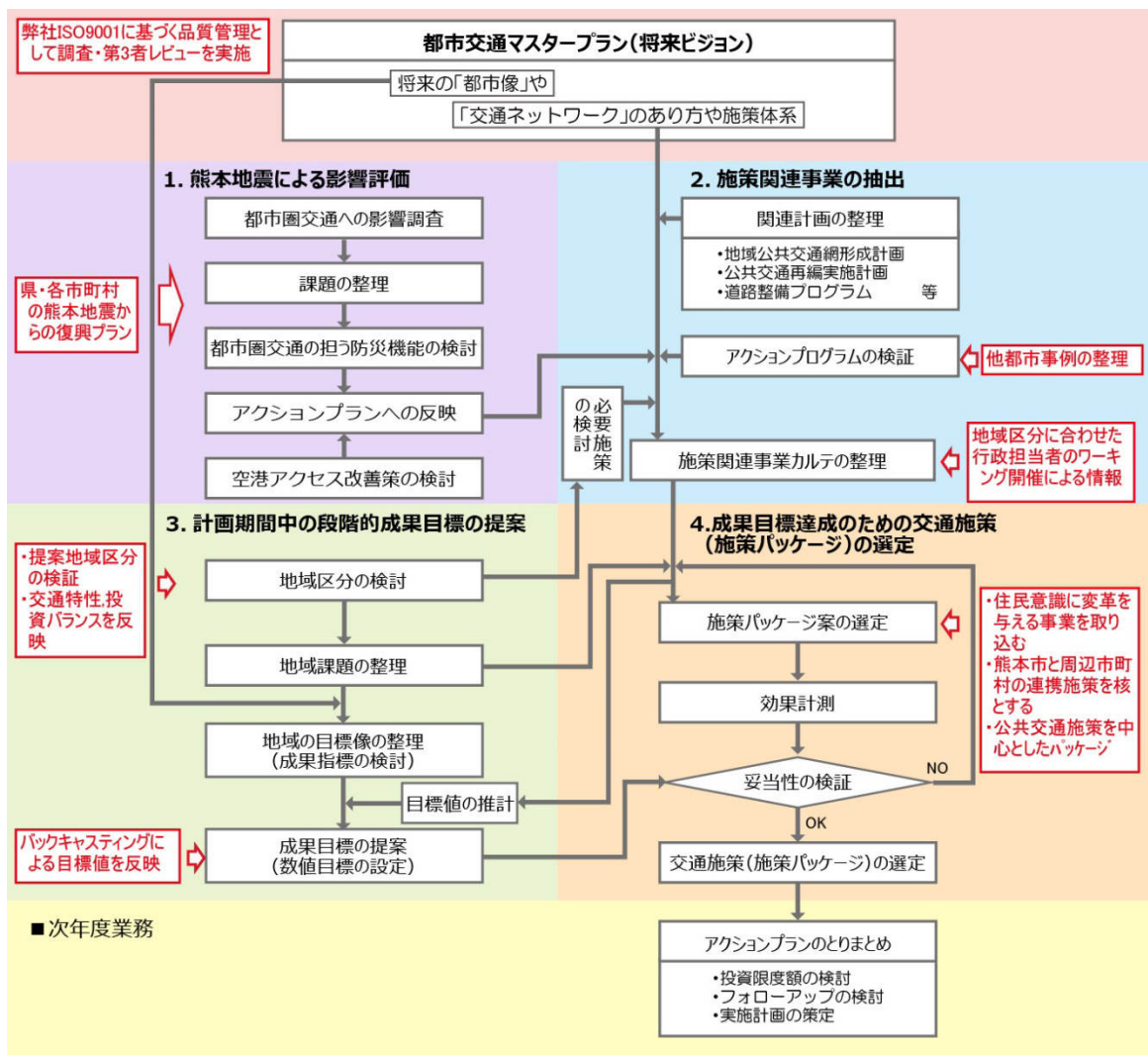
熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授	円山 琢也	
熊本高等専門学校建築社会デザイン工学科 准教授	橋本 淳也	

II 調査成果

1 調査目的

本業務の目的は、「熊本都市圏都市交通マスタープラン（平成28年3月）」において明らかにされた都市交通ネットワークの「望ましい姿（ビジョン）」の実現をめざし、提案された施策を戦略的に推進するために、施策に基づく事業の具体的な取り組み方を示す「熊本都市圏都市交通アクションプラン（実行計画）」を策定するものである。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

(1)熊本地震による影響評価

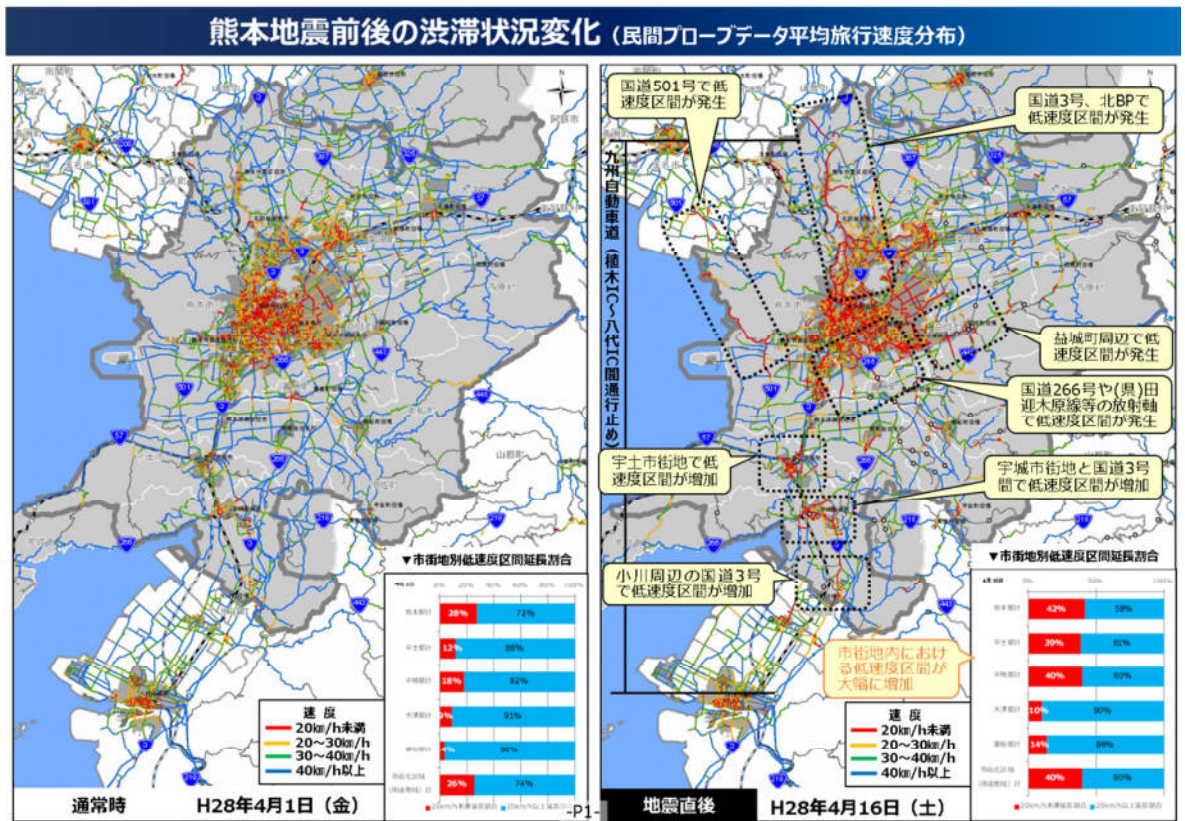
平成28年4月に発生した「熊本地震」の都市交通への影響（災害発生状況、通行規制及び規制解除の状況、渋滞状況、緊急輸送道路、避難状況等）を既存資料により確認を行った。

(評価結果)

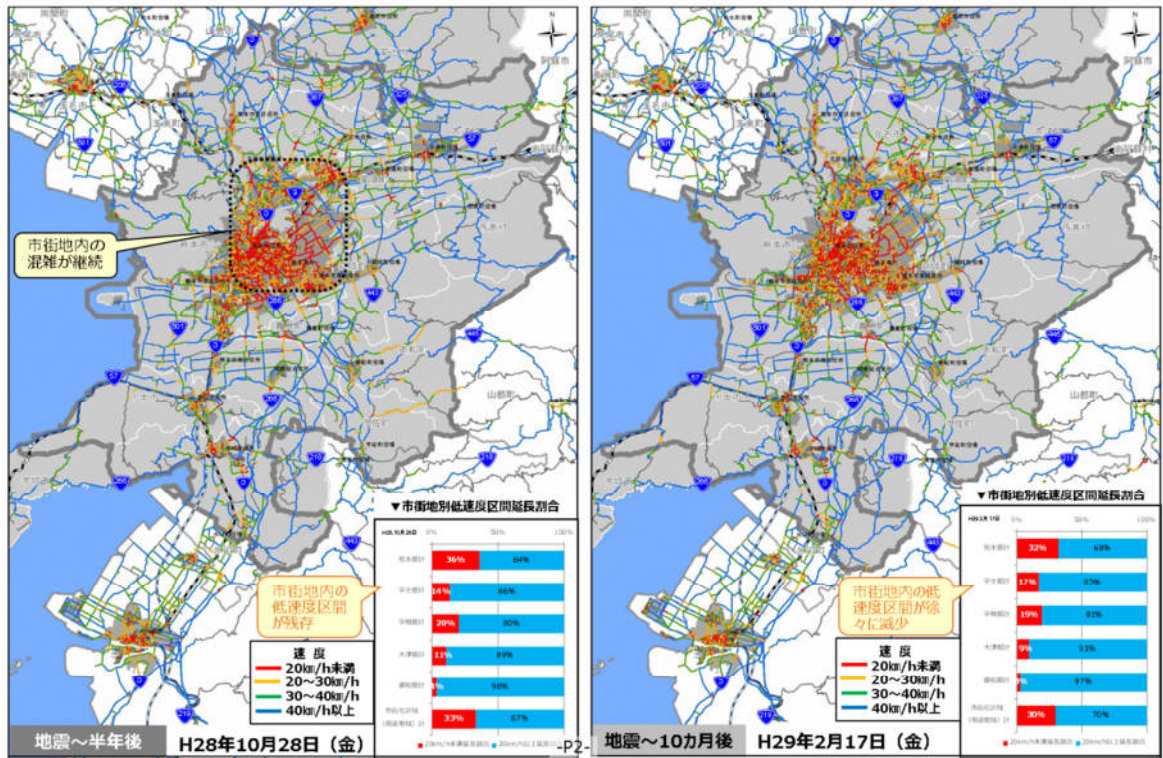
都市圏内の幹線道路や市街地内の道路については、地震直後に低速度区間が大幅に増加したが、半年、1年と経過するうちに、徐々に解消。

(対応方針案)

- ⇒ リダンダンシー確保の観点から、南北方向・東西方向ともに骨格幹線道路の優先的な整備を進める。
- ⇒ 地域及び路線の特性に応じて、幹線街路の整備並びに橋梁の耐震化及び電線地中化等の整備を進める。

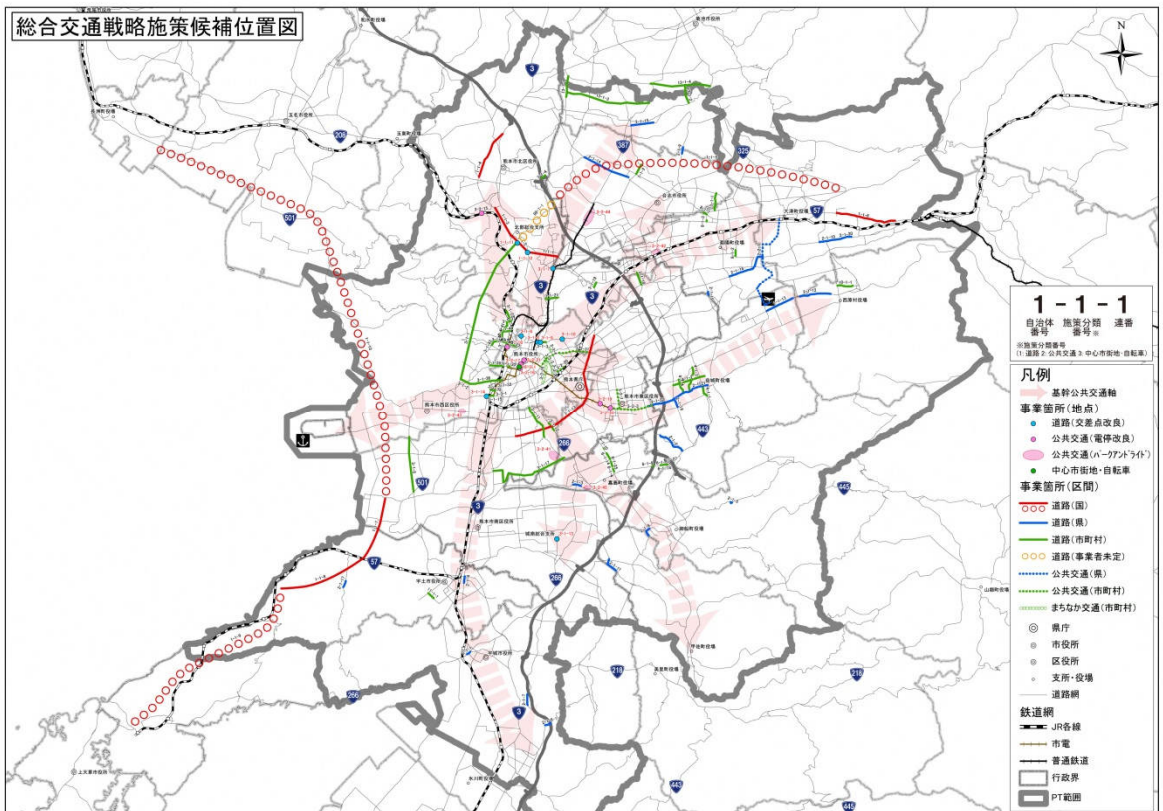


熊本地震前後の渋滞状況変化 (民間プローブデータ平均旅行速度分布)



(2) 施策関連事業の抽出

対象地域内で国、県、市町村及び交通事業者等で計画されている交通(公共交通及び道路)に関する事業や施策について、調査を実施し、施策(案)をとりまとめた。



(3) 成果目標の提案

マスタープランにおいて提案された目指すべき将来像を踏まえ、各地域の課題を整理し、アクションプラン期間中の段階的な成果目標を過年度に実施したPT 調査に基づく将来予測を実施したうえで提案した。

	戦略目標	区分	指標名	第三3項	
公共交通	持続可能で利便性が高く、災害時に早期に復旧する公共交通ネットワークの形成	平常時の視点	公共交通にアクセスしやすい区域の人口カバー率	社会	
		"	公共交通機関の年間利用者数	交通	
		"	日常的に公共交通機関を利用する住民の割合	"	
		防災の視点	交通事業者による既存BCPの強化	その他	
道路	都市圏内外の人流・物流、災害時活動を支援する骨格幹線道路網の形成	平常時の視点	渋滞時における自動車の平均旅行速度	その他	
		"	インターチェンジの日平均出入交通量	"	
		"	死傷事故率	社会	
		"	都市機能が充実して安全・快適と感じる住民の割合	その他	
		防災の視点	九州主要都市間ダブルネットワーク確保	・放射、環状道路の整備率	その他
		"	緊急輸送道路の防災機能の強化	・橋梁耐震化 ・無電柱化率	"
まちなか交通	高次都市機能を有する中心市街地等の拠点性・アクセス性の向上	平常時の視点	中心市街地の通行量	交通	
		"	JR熊本駅の乗降客数	"	
		"	自転車駐輪場における日当たり平均利用台数	"	
		防災の視点	広域交通拠点の防災機能の強化	その他	

■ 成果目標達成のための交通施策の策定

抽出された事業について、設定した成果目標（案）を達成するための最適メニュー（関連事業の組合せ）の提案を行った。

戦略目標（案）を達成するための施策パッケージとして、都市交通マスタープランで示す整備方針に沿った「基本パッケージ」を設定した。

基本パッケージに含まれる施策のうち、横断的に組合せ、相関的・相乗的に効果を発揮する施策を「連携パッケージ」として設定した。

